

## 授業特別協力者(ゲストスピーカー)報告書

テーマ : 現場目線の企業と大学とのマッチング  
授業特別協力者名 : 工藤 謙一 氏  
実施日時 : 2024年6月27日(木) 2時限  
担当教員名 : 羽田 尚子  
授業科目名 : イノベーション論  
履修者数 : 140名

### 実施結果

- ・受講者は約140名
- ・4-5月の講義で学んだ産学官連携について、その実務についてご紹介いただくのが目的。中央大学の産学連携推進のための取組について、以下の構成でお話いただいた。
  1. URA (University Research Administrator) の仕事内容。中央大学は6名在籍。調査(研究企画立案)、研究資金の応募推進、広報・報告、知財管理業務、ニーズとのマッチング。
  2. 主な財源: 公的なエージェンシー (JSPS, JST, NEDO)
  3. 産学連携のデメリットとメリット (産、官、学それぞれからの視点)
  4. 社会実装の困難な点 (普及のための法的根拠について)
  5. 中大初ベンチャーの例 (ソラリス、クラフトワークス)。文科省ムーンショットプロジェクトに採択された月探索 AI 小型ロボット、人工血液の着想から試験、実用化の課題を映像で紹介 (後者は BS テレ東のサイエンス番組)。

講師は主に理工系学生を対象に講義をする機会が多いが、理科系の知識のない商学部生向けに内容を調整していただいた。主に理工学部の研究シーズを活用した大学発スタートアップ、産学連携事例の紹介であったが、他学部の取組についても学ぶ機会になった。学生からは大学リソースを民間企業がどのように見つけるのか、マッチングのチャンネルについて質問があった。また、文科系の大学院リソースの活用として、社会倫理、法制度があり、例えば AI や再生医療の実装への貢献も紹介。現状では大学教員が対象である大学発スタートアップ支援が、今後は学生も対象に拡張したい等の紹介もあった。